

ロジスティクス環境会議 第4回本会議報告

ロジスティクス環境会議の第1期の最後の活動となる、「ロジスティクス環境会議 第4回本会議」が3月15日(水)に開催されました。当日は、張議長、岡部副議長をはじめとした総勢95名の参加のもと、下記議事についての報告及び承認がなされました。

- 1) 第1期活動の概要
- 2) 各委員会の活動報告について
- 3) 第1期活動の総括について
- 4) 企画運営委員会からの提案 –「ロジスティクス環境宣言」(案)について–
- 5) 2005年度収支決算(案)について
- 6) 第2期活動について

開会の挨拶



開会の挨拶を述べる張議長

ロジスティクス環境会議は、2003年11月の第1回本会議より活動が始まり、本日の第4回本会議をもちまして、第1期活動を終了いたします。この活動にあたりましては、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、議論を重ね、推進してまいりました。業務多忙にもかかわらず、各委員会の委員長をはじめ、メンバーの皆様のご尽力に対しまして厚く御礼申し上げます。

活動期間中、当会議を取り巻く外部環境には大きな変化がありました。特に、2005年2月「京都議定書」の発効を契機として、グリーン物流パートナーシップ会議の発足や、改正省エネルギー法の本年4月からの施行など、行政施策が強力に推進されてきております。このような中で、産業界として、環境負荷を低減していくためには、企業や業界の枠を超えた、横断的な取り組みが求められてきております。この環境会議を通して、荷主企業と物流企業の方々が共通の目標のもとに検討を重ねたことは、大変意義深いことであつたと思っております。

本日は各委員会より、検討された活動の成果をご発表いただきます。

今後とも、この環境会議を通して産業界、学界、行政、団体等の方々と目標、課題を共有し、人的交流を深めながら、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、活動を推進していただければ幸いです。

最後になり恐縮ですが、業務多忙の折、オブザーバーとしてご参加頂きました関係各省の皆様方に御礼を申し上げまして、簡単ではございますが私のご挨拶とさせていただきます。

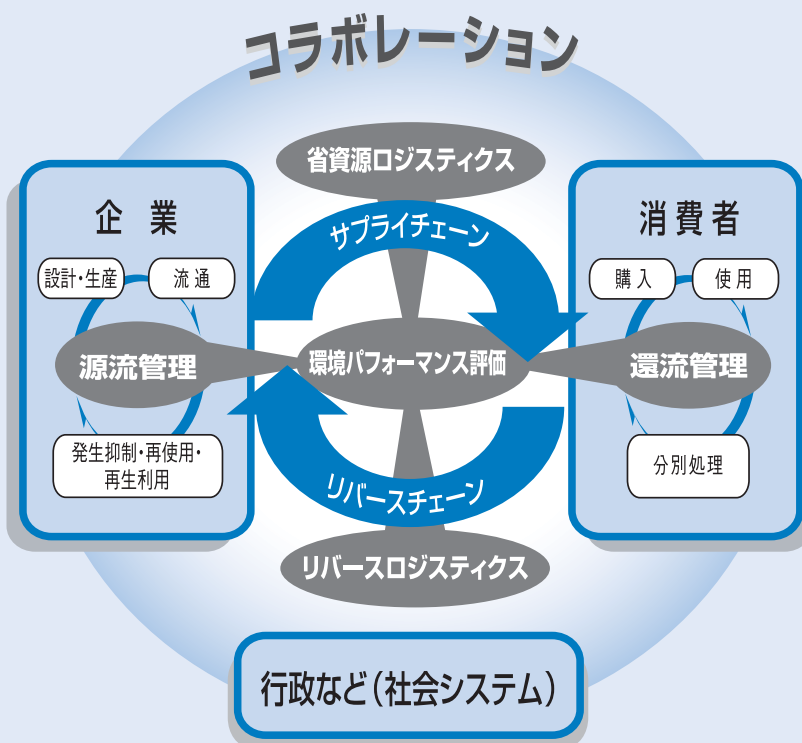


第1期活動の概要

1) 循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン

環境会議の活動を始めるにあたって討議してきた「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を常に意識しながら、各委員会において活動を進めた。

●循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン



調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを（人類生存の大前提である）最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献、を最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再使用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方まで視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILSは21世紀の循環型社会における、ロジスティクス活動のあるべき姿として「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」を提唱します。

循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を提案します。

2) 委員会活動について

以下の7委員会を設置し、第1期活動を進めた。

(1) グランドデザインのミッションに基づき設置(4委員会)

- i) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会
環境負荷低減活動を定量的に把握・評価する標準的な算定方法の整備を目的として設置
- ii) 源流管理による環境改善委員会
企業が自ら発生させている環境負荷を低減させるために何をしなければならぬか掘り下げていくことを目的として設置
- iii) 省資源ロジスティクス推進委員会
企業から消費者までモノやサービスが至る過程で環境にやさしいロジスティクスの実現を目指し、それを推進するためにどのような問題があるか調査、整理することを目的として設置
- iv) リバースロジスティクス調査委員会
今後ますます重要になっていく「リバースロジスティクス」の課題等を調査、整理することを目的として設置

(2) その他(3委員会)

- v) 共通基盤整備委員会
各委員会活動を進める中で、法律、用語等の共通認識が必要になることから、それらの整備や各委員会の活動支援を目的として設置
- vi) 広報・普及専門委員会
環境会議の活動を広く産業界に知ってもらうことを目的として設置
- vii) 企画運営委員会
それぞれの委員会が独立して動くことを避け、全体活動を統括することを目的として設置

(3) 参加企業・団体数及び委員会登録メンバー数

企業・団体数:109
委員会登録メンバー数:140名